

大阪のシンボルとして、多くの観光客が訪れる大阪城。城址を含む一体は大阪城公園として整備され、庭園やコンサート会場、スポーツ施設などもある憩いの場になっている。

その大阪城の目と鼻の先にあるのが、森之宮団地・森之宮第2団地だ。緑豊かな敷地に8階建てから25階建ての住棟がゆつたりと並び、お城ビュウの部屋もある絶好のロケーションを誇る。

2022年12月、この団地内にユニークなモデルルームがリニューアルオープンした。室内は、「転倒予防・介護予防のお部屋」「介護・医療のお部屋」「認知症を知るお部屋」の3つで構成。実際の暮らしで役立つアイデアやグッズ、機器などが展示され、誰でも自由に内覧、体験することが出来る。

団地を管理するUR都市機構の杉田恵子は、このモデルルームの意義を「近年、高齢になっても健康で自立して過ごせる健康寿命の延伸が推奨されています。このモデルルームでは賃貸住宅

森之宮病院のソーシャルワーカー、藤井由記代さんは「私たち医療機関だけでなく、さまざまなプレイヤーが連携して、網の目のように支援の輪を広げています。皆で連携して、安心して住み続けられる材料を一緒に作り出し、提供していきたい」と話す。

○多世代がいっき暮らしをまぢに

そして、2022年、連携に強力な新メンバーが加わった。2025年に森之宮にキャンパスを開設する大阪公立大学だ。

大学院リハビリテーション学研究科の樋口由美教授は、連携の趣旨を「大学の使命である社会貢献の実践の場として、住民の方々に最新情報を発信し、コミュニティ作りの一端を担ってあげれば」と説明する。

協定にもとづき、大阪公立大学と大道会は新たなモデルルームを協力・監修した。「転倒予防・介護予防のお部屋」を監修した上田哲也助教は「転倒は家の中で起こることが非常に多く、骨折・入院すると身体機能や筋力などが衰えて健康寿命に影響します。この部屋は100均グッズなどでできる段階差解消などのアイデアや最新のICT



地域全体で高齢者の暮らしをサポート 末永く安心して住み続けられるまちに

自宅で安心して暮らす！
「健康・医療・介護」を体験できるモデルルーム
2022年●令和4年～



阿部民子 text by Tamiko Abe
Illustration by Shigeyuki Sakata

でもできるアイデアをちりばめ、健康寿命の延伸と介護予防に役立つ情報を発信する。同時に、介護が必要になったときは介護する方される方双方に優しい介護・医療の在り方などを提案しています。多くの方に見ていただき、健康意識の高い地域にするお手伝いができれば」と話す。

○地域全体で暮らしを支援

森之宮地区は、大阪の中心に位置しながら、高度成長期に開発された集合住宅を中心に、人口減少や超高齢化といった課題を抱えている。

城東区役所保健福祉課長の椿谷康夫さんは、「課題解決のために、区では同地区を大阪府の推進する『スマートエイジング・シティ』のモデル地域と

を活用した簡単な運動、転倒を予防できる家具の配置方法など、すぐに取り入れられるアイデアを盛り込みました。気軽に立ち寄って、生活に取り入れていただけるとうれしいですね」と話す。

横井賀津志教授は「認知症を知るお部屋」を監修。「この部屋は認知症の方への理解や対応の普及啓発とともに、自分が認知症になったときにも安

しており、住民の方々が住み慣れた地域で健康で安心して暮らし続けていただけをまちづくりを目指しています」と話す。

一方、団地に隣接する社会医療法人大道会森之宮病院の大道道大理事長は、かねてより地域の高齢者の孤立化などに心を痛め、大阪府市の医療戦略会議で、地域を挙げての支援の取り組みを提言してきた。

その頃、URも多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まちを指す「地域医療福祉拠点化」に着手。城東区、森之宮病院、URの思いが一致したことから、3者は2015年に「森之宮地域におけるスマートエイジング・シティの理念を踏まえたまちづくりに関する協定」を締結した。

その第一弾として手がけたのが、前述のモデルルームの前身だ。要支援1から要介護5までの人を対象に、在宅療養等モデルルームを開設。5年間で延べ700人以上の見学者が訪れた。また、城東区の声かけのもと、社会福祉協議会や薬局、コンビニや自治会などとともに、地域を挙げての連携体制を構築。健康教室やスマホ教室などの取り組みも続けてきた。

心して暮らせる情報やヒントをちりばめました。予防から実践までの知識を通し、住んで安心と思える団地、地域になったらすてきやなと思っています」「介護・医療のお部屋」を監修した大道会在宅事業部統括管理者の安井学さんは「重度の介護が必要な方でも、自宅で生活できる最新の介護用ベッドや人工呼吸器などの医療機器を展示・紹介しています。現在必要な方はもちろん、健康な方にも見て知っていただし、安心に繋げて頂ければ」と語る。

「今回、大阪公立大学さんが加わったことにより、地域コミュニティの活性化や持続可能なまちづくりなどが連携事項に加わり、さらに充実した形になりました。今後は通学してくる学生さんなど、まちに若い方々がふえることで、まちの雰囲気も大きく変わるので、と期待しています」とURの杉田。多様な世代がいっき安心して暮らせるまちへ。森之宮は時代に先駆けた1つのモデルケースとなりそう。



モデルルームには最新のベッドなどが展示され、暮らし方に様々なヒントが得られる。